

## 2016 年度 日本学連臨時幹事会 議事録

開催日時：2016 年（平成 28 年）10 月 9 日（日） 15:00~21:00

開催会場：愛知県豊橋市 豊橋市民センター

議事録作成者：坂野 翔哉（東京理科大学）

### 目次

1. 前回幹事会進捗報告 .....	3
2. 学連発足 35 周年企画について .....	4
3. メーリスについて .....	4
4. 規約改正について .....	5
5. 全日本大会とロングセレクションの融合について .....	8
6. インカレリレー特例措置について .....	21
7. 新規栃木県内地図作成 .....	22
8. インカレスプリント会計 .....	22
9. 次回幹事会について .....	23

出席者（敬称略）

氏名	役職	学校名
木村 佳司	理事	山口大学卒
小泉 知貴	幹事長	慶應義塾大学
石山 良太	副幹事長	名古屋大学
成澤 春菜	会計	フェリス女学院大学
築地 孝和	事業部長	神戸大学
坂野 翔哉	広報部長	東京理科大学
吉澤 佳奈	事務局長	日本女子大学
細 正隆	普及部長	東北大学
堀江 優貴	渉外部長	東北大学
田中 基成	会計監査	筑波大学
渥美 駿	北東学連幹事長	福島大学
高田 和樹	北信越学連幹事長	新潟大学
瀬川 出	関東学連幹事長	東京大学
横田 智也	東海学連幹事長	名古屋大学
中村 哲	関西学連幹事長	京都大学
下江 裕貴	中四国九州学連幹事長	広島大学

## 1. 前回幹事会進捗報告

### 要旨

第 2 回幹事会において、各担当に割り振った仕事や、幹事長としてやると決めた仕事がいくつかあった。これについての報告を行う。

小泉	インカレロング L,S の住み分けについて難易度基準はインカレミドルの A,B と同じかという質問があったためインカレロング実行委員会へ連絡したところ返信があった。一緒という回答だった。
小泉	関東学連渉外問題について山川さんからオリエンティア ML に説明と謝罪すべきという意見があったが、JOA 事務局の高村さんに報告したところ、必要ではないとの意見であったため、この ML に対して返信はしない。そもそもこの ML は公式の報告する場ではない。
	渉外マニュアル作成は高村さんをお願いした。今後は高村さんが対応していく。
瀬川	冊子を作ると聞いたが、これは渉外マニュアルのことか。
小泉	それは怪我の対応マニュアルと聞いている。大会会場に置いて必要になったときに備えるものになると思う。
小泉	事務局の私書箱はどうなったか。
吉澤	日本女子大学の窓口を訪ねたところ対応可能だったため、こちらを日本学連事務局の郵便物の宛先とした。 〒112-8681 東京都文京区目白台 2-8-1 日本女子大学学生課 オリエンテーリングクラブ 吉澤宛 HP にも掲載した。
小泉	事務局移転の規約作成は山川さんに再びお願いしたものの、インカレの調査が忙しいようなので、他の理事さんにも協力をお願いした。
小泉	また、山川さんの残業と言われている塩谷田所は契約範囲が来週までに終わらない。
坂野	いつまでも終わらないが、根本的な対策はないのか。
小泉	インカレロングがたてこんでいるようだ。
田中	塩谷熊の木も残業がある。オリエンテーリング界に人手が足りていない。

## 2.学連発足 35 周年企画について

### 要旨

日本学連は今年度の 12 月で発足 32 周年となる。30 周年では記念事業の開催を見送ったものの、今後の記念事業の開催可否や内容について定期的に学生から意見を求めている。各クラブ、地区学連で意見を出し合い、次期幹事会などに持ち寄ってほしい。

小泉	意見はないようですが、引き続き募集しています。
----	-------------------------

## 3.メールスについて

### 要旨

幹事や渉外とのメールングリストに使っている@orienteering.com のドメインを利用する上で不都合な点が多くある。JOA の理事メールスやオリエンティアメールスでは freeml.com を使っているが、移行できないだろうか。

小泉	<p>渉外を含む UOFJ のメールングリストに関して、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・添付ファイルは使用不能。</li> <li>・文章が長いと送れない、配信が遅れる。</li> <li>・送信者には届かず確認できない。</li> </ul> <p>等の不都合を感じている。これはどのようなシステムで、改善可能なものなのか。</p>
木村	<p>これは私が管理しているドメインなので説明する。</p> <p>これは古いシステムで稼働から約 20 年、システムを更新してから 10 年が経過した。サーバーだけでなくメールングリストのソフトも古い。文章が長いと送れないことに関しては、メール容量の上限を 40KB に設定している。</p> <p>昔は ML が作成しづらく、これを作るしかなかった。そこで普及したものだが、今は無料で便利なサービスが利用できる。今後はそのような別のサービスを使って欲しい。</p> <p>このメールングリストをそのまま更新しない理由としては、ML の一極集中はシステムダウンの可能性があり、オリエンテーリング界への被害が大きい。このサーバーは、大会スケジュールサイトとしている Orienteering.com のみの利用にして、サーバーをなるべく軽くしていきたい。</p>
小泉	<p>日本学連渉外 ML はオリエンテーリング界にも普及している Freeml に移行を考えている。全日本関係の議題が落ち着いたら作業に取りかかりたい。</p> <p>変えることに問題や意見はないか。なければ移行作業をしていく。</p>

#### 4.規約改正について

##### 要旨

日本学連規約 6 条連盟規約の改正について、手続を簡略化する方針にまとまった。今年度中に各地区学連規約と日本学連規約を改正する。

加盟校基準の統一については、人数基準を 10 人に統一が候補として挙げられたが地区学連にとっての加盟校の価値に相違があるため今後も引き続き議論を行う。

小泉	6 条：連盟規約の改正は日本学連総会の承認が必要だが、それ以外は不要で各地区で変更を可能とし、幹事会や総会に事後報告、という形にしたい。
小泉	<p>パターン 1</p> <p>「但し、規約に特別の定めがあるときは、規約の改正は日本学連総会の承認を必要とする。」</p> <p>+各地区学連規約「本規約の改正は日本学連総会において加盟校総数の 3 分の 2 以上の賛成を必要とする」</p> <p>※一番順当な形。ただ、地区学連のもなおさなければいけないのがやや面倒</p> <p>パターン 2</p> <p>「地区学連の規約は本連盟の規約に準じて作られ、本連盟の承認を受けるものとする。～～。但し、地区学連が必要に応じて作った規約については、この限りでない。」</p> <p>※つまり、日学規約から派生した規約は改正に日学総会の承認を必要とし、それ以外(ロングセレ規約など)は不要とする。連盟規約以外も含んでしまうが、いずれも加盟に関する規約、総会の欠席に関する規約など重要なものなので、これらも日学総会を通して問題ないと思う。</p> <p>パターン 3</p> <p>「規約の改正のあるときは、その都度、幹事長(or 事務局長 or 幹事会)に申請し、幹事会若しくは総会の承認を受けなければならない。」</p> <p>※申請先を幹事長や幹事会にし、そこで判断をすることで、必要なものは幹事会や総会にあげるという方法</p>
木村	規約は組織の形を定義する。あまり厳密に規約化を行うべきではない。運用方法に関しては細則をつくってはどうか。
小泉	木村さんの意見は先に述べたパターン 2 が近いといえる。たしかに改正が面倒でないのでもいい。
中村	関西学連では近く規約改正を考えている。次回総会での承認を行うとのことだと

	施行日はいつになるか。
小泉	厳密に考えると旧規約での適用だが、次回総会での地区学連規約改正議題に関しては作成予定の新規約に基づき、ML で全員に周知するという形だけで可としたい。異論はないか。
小泉	続いて加盟校の基準について、準加盟校から加盟校昇格は地区の総会での決定、降格は満たさなくなった年の年度末に自動的ということになった。その加盟校基準の人数について意見が別れたが各地区でどのような意見があったか。
瀬川	関東では意見が余り出ていないものの、人数は一概に言えない。加盟校は多い方がいいため、5 人を基準にしたい、継続的に自立した活動を行うため 10 人で統一したい、という意見があった。
横田	東海では現状維持の 10 名とすべきとの意見となった。5 名にしたところで意見の統一は変わらないから差はないとの反論もあったが、5 名とするなら人数に比例して票数を増やすべきという意見もあった。
渥美	北東では、10 人より 5 人派が多い。人数に関わらず学校としての活動をしているため票数などは同等に扱われるべきと考えている。
下江	中九四 5 人では加盟校としての仕事や責任の遂行不可能と考えている。
中村	関西学連は 5 人では組織として少ない人数であり、人数による票数の格差の観点からも 10 人は必要と考えている。
小泉	これまでは加盟校の意見が多かったが、この場での意見はどうか。
下江	5 人は流石に少ないと思う。実際に組織として活動するために必要な上級生の数が確保できないため、10 人は必要に思う。
中村	5 人はちょっと集まったくらいの規模としか言えない。
細	東北大学は約 100 人のクラブなので、10 人にしたほうが一票の格差は少ない。
堀江	5 人では関東の加盟校が多くなっていて、関東学連の意見が強くなってしまっている。
横田	5 人では格差問題が多くなる。5 人で統一するならば票数の改正が伴わないと不公平を感じる。
瀬川	規模が小さい大学でも総会に来てもらいたい。関東ではそれによってつながりを持ち、普及をしている面も大いにある。
坂野	関東学連とそれ以外の学連で意見に大きな差がある。関東だけは複数の学校を集めて 1 票を与えるなどで他地区との格差を解消できないか。
小泉	複数の学校では、毎年変動する人数や学校の線引きに対応できない。
瀬川	準加盟も総会に参加して欲しいと考えている。
小泉	関東は他大学への普及や新歓が行われていて準加盟校が毎年増えている。他の地区で同じような例はないか。

築地	関西ではない。
坂野	日本学連内での加盟校基準に不公平があって、関東学連では少人数校からの意見を求めたいのなら関東学連総会参加だけの権限をもたせることはできないか。
瀬川	現状でも 5 名未満の準加盟校も議決権がないだけで関東学連総会に出席はできる。
坂野	議決権があるから小さい学校も話し合いの必要が生じて、組織としての成長ができるという面は感じているため関東が 5 名を維持したい理由は分かる。10 名未満の加盟校には関東学連内でのみ有効な議決権を持たせることはできないか。
瀬川	議題によって議決権を団体人数によって分ける必要が出てきて、複雑になるのであまり好ましくないと思う。
小泉	全体として 10 人に統一する意見が多いよう感じる。
下江	関東学連内規約だけでの議決権をもたせ、出席義務を作ることは不可能なのか。
坂野	結局議決権もないのに会議に出席するというのは団体内で積極的な話し合いにならないと思う。
小泉	10 名以下の加盟校は関東学連総会でのみ議決権を持たせて、日本学連総会では 10 名を統一というようにできるか。少人数校でもセレクション関係の議題では議決権を持ってもいいと思う。10 名以下の加盟校の意見はないか。
瀬川	現在 7 名の津田塾からの意見では、人数を 5 人や 10 人とすることの基準は難しいものの、加盟校が多いことは良いと思うという意見だった。人数が少ない加盟校ができた場合、それが負担になる学校もあるとは思う。
小泉	10 名未満の大学でも総会に出て意見を出したいという意見がわかった。ほかに 10 名未満の大学から意見はないか。
成澤	フェリスは現在 5 人から 4 人になってしまった。人数が少ないとあまり話し合いもできていない。オリエンテーリングの練習でせいっぱいである。
坂野	理科大は現在 8 人登録している。普及の観点から関東学連においては総会への出席は重要と思う。先に述べたように全体は 10 人で統一して、関東学連内での議決権が 5 人でどうだろうか。
小泉	以上の意見より、10 人を基準として統一、昇格は地区学連の申請と承認が必要、降格は人数が 9 名以下となった年度末に自動的に降格する、としたいが議論を深めていく必要がある。
瀬川	いつからどうやって規約を変えるのか。
小泉	加盟校基準の統一は各地区学連規約の改正も必要となるため日本学連と協力して改正していきたい。次回秋インカレ総会で草案発表と日本学連規約の改正準備、春インカレ総会で地区学連とともに全て改正したい。新 6 条の施行は秋インカレでの承認後で、新 6 条適用もできる。加盟校基準統一の施行は年度末に設定し、来年度 4 月から適用したい。

瀬川	地区学連規約改正は地区学連総会で否決される可能性もあるがどうするのか。
小泉	その可能性はある。これは幹事界の方針である。その旨や意義を各地区で伝えて欲しい。

## 5.全日本大会とロングセレクションの融合について

### 要旨

- ・全日本大会をインカレロングの選手権クラス選考会に採用することは、地区学連が各自判断をする。採用に関しては、全日本大会を魅力的なイベントとすること、全日本大会開催地から該当地区を指定し、幹事会から推薦をする、といった方法で強制はしないこととなった。来年度の全日本大会では関東学連と北東学連に対してセレクション採用を勧めた。
- ・開催時期の変動や加盟員の公平な選考のために全地区学連でなるべくセレクション二本制を採用してもらいたい。また、運営者となる OB/OG の負担は、全日本大会が当日の手伝い程度になるため、そこまで増えないと考えられる。
- ・セレクションではなく全日本大会 21E クラスに実力を持っている人が出てもらえるよう、全日本大会 21E 出場権所有者のインカレロングセレクション免除を適用する。ひとまず該当者全員免除という形をとり、免除者の地区学連枠の減少はしない。ただし、今後余りにも全日本 21E 権所有者が増えてしまった場合には上限を設ける。この上限の基準や方法については今後議論する。
- ・膨大な参加者が予想されるためセレクションの専用クラスを設けて共催という形を取らざるを得ないために、ジュニアクラスである 20E へ出場する大学生は大幅に減少する。この 20E クラスの今後の在り方について、セレクションとして採用しない地区の大学生やセレクション 2 本制を採用したことで参加できる大学生が参加できる 20E のままにしておくか、20E を廃止して高校生以下だけの 18E を設けるか、中高生から意見を集めることになった。
- ・公認大会や全日本大会の在り方について議論した。公認大会は JOA に品質が保証されている大会であるため、開催数は増やしていきたいし、日程の重複も認めている。ただ開催の難しさから開催数が少なく、全日本 E 権取得難易度の高さにもなっている。全日本大会参加者数を増やすため、インカレ選手権入賞者などが全日本 E 権をとれるようにする。全日本大会で演出を行う、観戦のしやすい魅力的なコースとするなど日本学連から JOA に対して全日本大会改善案を出す。

<p>小泉</p>	<p>全日本大会とロングセレクションの融合について具体的方針を立てていきたい。秋総会では質疑応答のみで詳細な議論はできそうにないため、学生からの意見をここでまとめたい。なるべく具体的な話を作って加盟員全体で共有したい。1月幹事会で到達目標の決定をしたい。その幹事会後の春総会で方針を可決できれば日本学連としての意見を決定して JOA に提出するという流れとしたい。</p> <p>前回幹事会での決定事項は</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全日本大会とロングセレクションの融合を行う</li> <li>・それをセレクションにする判断は地区学連が判断する</li> <li>・来年度全日本大会 21E クラス参加を促すためのセレクション免除はしない</li> <li>・参加費をこれまでのセレクション程度に収める</li> <li>・今後の公認大会や全日本大会のあり方について学連から JOA に提案していく</li> </ul> <p>争点は</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・セレクションが複数行われることの負担や意義</li> <li>・全日本大会という頂点を決める大会がセレクションを兼ねるべきかという意義</li> <li>・地区学連の判断に任せて参加者増という目標は達成されるのか</li> <li>・全日本大会 E 権所有者のセレクション免除が必要なのか、また適用するならいつになるか</li> <li>・セレクション運営者はこれまで OB/OG だったが今後の関わり方はどうなるか</li> <li>・セレクション免除によってインカレ出走者数の増加に対応できるのか</li> <li>・大学生参加者のいなくなる全日本大会 20E クラスのあり方について</li> <li>・インカレ出場権が与えられることにもなりかねない公認大会のあり方についてまず、各地区学連で出た意見を述べて欲しい。</li> </ul>
<p>瀬川</p>	<p>関東学連であった意見を述べると</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・公認大会数と全日本大会 E 権獲得者数が少ない。</li> <li>・大学生にとっての全日本大会の価値がすなわち併設のセレクションとなるような形ではよくない。</li> <li>・遠隔地での選考会は制度としての意味が失われる。セレクションは参加しやすさを最優先すべき。</li> <li>・そもそも全日本大会について熟議してほしい。</li> <li>・公認大会は JOA が管轄しきれていないためセレ免除は不適格。</li> <li>・免除は大会参加者によって、学連によって、差が大きすぎる。</li> <li>・現行 20E 出る人が 21E 出してしまうので 20E の価値がなくなるためいないのでは。</li> <li>・運営はだれがすることになるのか。OBOG はどのように関わるのか。</li> <li>・21E の人数は妥当だから公認大会数を一定数に維持または制限する仕組みを作るべき。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・再来年以降は公認大会でのセレ免除も平等となるから導入しても良い。</li> <li>・大学生を完全に別とした 22E、23E などを新設してはどうか。</li> <li>・公認大会は地域の持ち回りなどで数を維持して安定した開催をしてほしい。</li> <li>・全日本大会と言っても学生はセレを重視してしまう。</li> <li>・セレクション 2 本の制度がどういう意味なのかが分からない。</li> </ul>
坂野	<p>関東の意見の殆どは事前に出た議題に集約されると思う。</p> <p>20E は高校生が大学生への腕試し的な面があるため簡単に廃止はできないと考えている。また、22E や 23E をつくるのは統一した日本一位を決めるのに不適合。</p>
渥美	<p>北東学連としては、公認大会の規模が違い安定しないため免除するのは反対。</p> <p>北東学連はいまでも 2 本セセレクションを開催しているため、セレクションのどれを開催するのか、どの大会が何人参加するのか、が複雑になりセレクションの価値が下がりがねない。</p> <p>北大は移動距離が長くなり、人数も多くなるので宿がなくなったり高くなったりする可能性から否定的だった。</p>
横田	<p>東海学連としてはセレクションが複数回となるのは問題ないし、近隣で全日本大会が開催された場合に地区学連によるセレクション採用は妥当と思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・公認大会を増やして欲しい。</li> <li>・セレクションと 20E を同一コースにするなどの対応をする。</li> <li>・全日本大会運営に OB の手が必要なら事前に言って欲しい。</li> <li>・公認大会を同時に行うのは全日本 E 権が取れやすくなってしまい、インカレ出場権の付与は現行制度ではおかしい。</li> </ul> <p>という意見があった。</p>
中村	<p>関西学連からは、インカレ出場権の付与は公認大会の同時開催を不可能にするような開催時期の調整ができないかという意見があった。全日本大会運営に OB の手が必要なら事前に言って欲しい。学生運営者からすればある意味選考会を兼ねることになる公認大会を開きにくい。学生大会の公認化は近畿ブロック会議で積極的に開く方針がある。全日本としての参加が消極的になってしまう。</p>
下江	<p>中九四としては開催場所が遠くなる可能性が高いのでセレクション兼全日本大会とする強制はしてほしくない。が、全日本大会の立て直しは必要と思う。セレ免除は E 権のありかたから見直すべき。</p>
小泉	<p>この件について全体的に関心が薄れている印象がある。論点の統一と調整をしたい。</p>
小泉	<p>論点のひとつ、公認大会によってインカレ出場権の付与がなされるため、実質セレ複数回開催となり、インカレの価値が薄まるという意見に関しては全日本大会立て直しには必要なことかと思う。これについて意見はあるか。</p>

細	6月は4年生文系の就職活動により、8月は理系の研究や就職活動によってセレクションの日程調整は難しい。そのため北東学連はセレクションを2回にしている。公認大会によるセレ複数回は4年生にうれしい。
坂野	北東学連は2回の選考会で結局どうやって人数決めているのか。
渥美	選考人数をそれぞれのセレで決めている。東大大会と北東インカレがおよそ2:3の枠だった。
小泉	全日本大会参加の意欲が消極的理由になるという意見に関して意見はあるか。
瀬川	全日本大会自体の価値を熟考すべきかと思う。
坂野	これまで全日本大会に来ていた人にとっての価値がそんなに下がることはないと思うし、セレクション採用によって新しく来るようになったひとの価値を検討する必要があるのか。
田中	全日本のブランド云々は今後の話で、今回のセレクションとの融合は全日本大会延命の処置と考えている。
小泉	たしかに当初の意義から考えたら、全日本大会参加の意欲低下に関しては大会延命の処置のためという回答になるかと思う。
小泉	セレとして使うと決めたことで本当に参加者は来るのかという意見に関して意見はあるか。
石山	開催地の都合が良ければ使うという自由さだとセレクションに使わなくなるのでは。技術委員会の提言などである程度の強制策は作れないか。
小泉	全日本大会とインカレのトレインコントロール、開催地域の方向性統一を行うことで強制せずともセレクションへの採用を促せないだろうか。
坂野	延命という意義からすると、実際にやってみるしかないのでは。
小泉	少なくとも全部の地区学連に採用を強制はしない。しかし全日本大会をセレクションとする風潮は廃れる可能性がある。
坂野	全日本大会が魅力あるトレインやコースであればセレクションへの採用が廃れていくことはないかと思う。
小泉	現在セレクション1本制は関東・東海・関西だが、今後2本制にできないか、全地区で2本制を強制したらできるのか。
中村	関西学連ではセレクションは規約に6月の第3週開催と決まっていて、これが次回の全日本大会と被っている。2回のセレクション開催に大きな問題はないが、この規約改正が必要になる。
横田	東海学連ではOBの負担が心配になっている。東海インカレがセレクションとなっているため、さらに全日本の2回も運営するのはOBの負担が増えてできないと考えている。
坂野	そういう場合は全日本大会1回だけのセレクションにできないか。

横田	東海インカレは開催することになるので、全日本はセレクション採用しないことになる。
瀬川	20Eを重視する人にはセレと対立してしまう。そういう人にとっては2本制が良い。問題は運営の労力が倍になること。
小泉	インカレと全日本大会のトレインコントロールはできるのか。来年の全日本ロングはどこでやるのか？
田中	トレインの類似性を気にするのは関東くらいではないか。
中村	トレインの選択肢が少ないためあまり気にしていない。
横田	同様にトレインの選択肢がない。
田中	トレインの類似性よりも、速い人が通る。他の地区はそうやっている。
小泉	最低で全日本の開催地区の学連は全日本大会をインカレ選考会としての採用をある程度強制できればとは思っている。
木村	JOAから学生団体への強制はおかしいが、誘致をするというのが現実的である。最終的には地区学連が決定しなければならないと思う。全日本大会が選考会として選ばれなければ全日本プロデューサーの腕が悪かったということ。
小泉	強制はせず1月幹事会で報告と誘致、最終決定は地区学連にて行うことにしたい。
田中	今後見通しが立っている矢板や椈の湖なら近隣地区学連は参加しやすいと思う。その先はそのときの世代が考え、柔軟に変化を受け入れていくようなやり方か無いと思う。
木村	全日本大会の県協会持ち回り制度について、以前は強制していたがいまは崩壊した。それに対してインカレは学生が参加しやすいように開催されている。今後は全日本もそうなると思う。オリンピック開催などの強い誘致によってなど例外はあると思うが、それは例外。全日本大会の品質を上げていくのが方針。その高品質大会をセレクション採用として誘致していきたい。学連に対して強制はできない。
小泉	JOAからの意見提出時期・地区学連での採用決定時期を制度化する必要はなさそう。異論はないか。
木村	トレインコントロールの観点から1年前にはクローズする。それでいいだろうか。
小泉	それならセレ採用の議論に時間的問題はないように思える。採用判断の時期や幹事会からの周知などの制度化は不要ということにする。
中村	次回の全日本大会開催地が矢板とのことだが関西は採用できないと思う。例年通りのセレクション開催となる。
木村	次回の全日本大会のセレクション採用は、関東と北東にはお願いしたい。北信越もできれば来ていただきたい。

小泉	全日本大会 21E 権によるインカレセレクション免除について、意見交換をします。全日本大会 21E 権の取得はかなり難しいため免除するだけの理由はあるが、公認大会の数が増える、学生の公認大会開催を促すなどの条件を整えばセレクション免除対象者の数は増えるだろう。
木村	そもそもの意図は全日本大会が名実ともに日本一を決める大会としたい。セレ免除が目的ではなく、日本トップを争える学生はセレクションではなく全日本大会に出て欲しいということ。権利所有者を全員免除とするのではなく権利所有者のうち技術委員会の承認を通すなどで問題を解決できないだろうか。
瀬川	それによって公認大会に学生の参加者増えるのではないか。
木村	それは目的ではないが、副産物的な効果はあると思う。
坂野	公認大会が増えることは JOA にとっての目標なので、公認大会を減らしたり学生の開催を阻害したりするのは無理だと思う。意見にあったように、技術委員会が人数をしぼることでインカレ出場権の制御をすべきだと思う。
田中	人数を絞るより、全日本大会のためには全日本大会 21E 権のとりやすさを変えるべきだ。
瀬川	過去の学生 21E 所持者を挙げると、インカレ上位選手にもなった実力ある選手ばかりであった。現在の制度の公認大会なら全員セレクション免除していいかと思う。
中村	もし開催地の偏りで参加者の少ない公認大会があり、セレクション免除すべきでないような人が通ってしまったらどうするのか。
小泉	セレクション対象者のモチベーションには関わるかもしれない。しかしそれは過去の上位者から考えたらかなり稀だと思うし、実力がなければインカレ本番で惨敗し、インカレの価値に大きく関わることはないと考えられる。
田中	地区学連枠数とは別にすべき、つまりセレクション免除の資格は 60 枠から切り離すべき。
坂野	10 人など免除されたら選手権クラス出場者が 70 人にもなり、インカレ運営への支障やインカレの価値も変動してしまわないだろうか。
小泉	人数制限という観点は必要になるかもしれない。
横田	公認大会のポイントランキング表を使って学生上位数名を免除などで対応できないか。
田中	ポイントランキングは公認大会だけなので開催地や開催頻度によって偏ってしまう。
坂野	技術委員会が最終的な選考するにしてもその選考判断基準まで規約に書けるのか。それよりはお願いと言うか、細則や判断基準として提示してお願いするという形になると思う。
小泉	ポイントランキング表も機能するかわからない。不確定要素が多く、技術委員会

	へのお願いと言う形になるかもしれない。
田中	60 枠から削るほうが制度としての整合性が取れるのではないか。反対する理由はあるか。
小泉	免除者は枠数と別にするという意味が重要かと思う。地区によっては年によって枠の増減が大きい。昨年度の枠からの回復がはやくなるメリットはある。
小泉	数年は様子を見る必要もあると思うが、細かいことまで決めるのは状況が変化してからでも可能かと。
田中	柔軟に対応できる形がいいとは思う。現行のままでセレクションを免除して様子を見てはどうか。全日本大会の改革も数年という期間があるためこちらも長い目で見ていきたい。
細	しかし制度だけを変えてしまえば免除人数は増えていくと思う。
坂野	いままで自力で枠を取れる人が枠外で免除されると際限なく枠が拡大する可能性がある。セレ免除者の上限は作るべきだと思う。
細	昨年は女子の選考人数を減らすのが議論になった。安易に人数を拡大するのは良くない。
横田	公認大会の同時開催だけは防ぐべき。人数が分散すれば容易にインカレの出場権が得られることになる。
小泉	これまでに意見をまとめると、初年度は全日本大会 21E 権を持っている学生はインカレセレクションを免除するというところでどうか。
木村	確認したい。全日本大会 M21E 所持者はインカレセレ免除、状況を見ながらそのつど規約を見直すということか。
小泉	今後の公認大会数、M21E 権所持者数などみて、その都度、技術委員会の判断をする、人数上限をつくるといった対応を考えたい。適用年度は 2018 年度か。
瀬川	今回は情報の発表時期から今年度 E 権所持に免除は不公平となる。早くて平成 30 年度全日本大会からか。
小泉	全日本大会上位者は翌年の権利が得られるため、情報の公平性を考慮し続けることで施行をいつまでも引き伸ばしてしまう。2018 年(平成 30 年)6 月頃開催予定の全日本大会 21E 出場権利者は以後のインカレ選考大会の免除でどうだろうか、つまり 2017 年(平成 29 年)6 月以降の公認大会で全日本大会 M21E 権取得することによってセレクション免除が適用される。
坂野	ということは最速での制度適用は 2017 年 6 月に開催せれる全日本大会でセレクション免除が取得できる。この全日本大会の選手権クラスとの併設はどうなるのか。セレクション対象クラスが設置されるため学生は全日本大会 M21E クラスに出場しないと思う。
瀬川	関東はまだ決定していないが、セレクション 2 本制にした上で、全日本大会兼セレクションでは全日本大会 M21E になるべく出場してもらうようにするしかない

	い。これを適用するには6月までにセレクション開催の判断や規約改正が必要になる。M21Eクラス10位以内でセレクション免除になるか、セレクションクラスに出場するかという判断材料になる。
田中	関東が全日本との併設セレクションと決定した場合、全日本M21Eには現時点で宮本樹が出場できる。
木村	本人の意志を尊重してもいいかと思う。
小泉	学生OB/OGが運営を手伝う場合の方式、セレクション2本制とする場合の運営負担はどう解決していくか。
木村	全日本大会はプロに主催してもらうしか無いと考えている。プロではなくてもセミプロのような人も多い。個人的意見としては中心的な人物をそのような人をお願いして、OB等の手を多くは借りないようにしたい。しかし地域によってプレはありえる。
瀬川	学生OBはどう関わることになるのか。
木村	当日の運営者になるかと。例えばインカレでは10人ほどの中心メンバーが大変で事前準備があるものの、残り40人近くは当日のみの参加である。全日本はこの中心メンバーがプロ・セミプロで、当日にOBの力を借りるかも知れない。
石山	椈の湖での全日本リレーは中心が岐阜県協会だった。当日手伝いは僅かだが謝礼があった。そのような形かと思う。
木村	それはかなり上手にやった例で、補助金も活用している。全日本の場合、謝礼や報酬を出すことは難しいかもしれないが、宿泊交通などの経費は絶対に負担させない。
小泉	運営負担は2本制にしても大きく増加はしないと思われる。セレクション2本制は実現可能な案と分かった。
田中	負担が軽いと言っても運営者の声掛けは早いほうがいい。
木村	すくなくとも1年前。矢板は関東ブロック会議から運営者を集める。東海地区はブロック会議がないので、県協会から集める。地域によって対応は様々になると思われるため、これはJOAと全日本プロデューサーの課題と言える。
小泉	プロデューサーから声がかかったらOBも全日本運営に手伝う可能性があるため、理解してもらうようにしたい。
木村	卒業後はインカレに協力すると思うが、今後はセレである全日本にも協力をお願いしたい。
瀬川	その運営者募集告知は、今年はいつになるのか。
木村	今年連絡協議会が3月20日、そこから人を集め始める。
小泉	インカレ出場者数についての議論は先ほど解決したように、別枠とする。人数の増減が生じた場合には今後、技術委員会の承認やランキング等を利用した人数制限によって解決していきたい。

小泉	20E クラスの存在について、ジュニア選手権のあり方を考える。全日本大会のクラス分けにも影響する。意見はあるか。
田中	20E が注目されていないのはインターハイの影響が大きいと思う。全日本大会の20E クラスの意味というのはどのようなものがあるか。
坂野	東海高校はインターハイが9月になってから、3月の引退までの半年間の目標は3月開催の全日本大会 M20E クラスだった。全日本大会の年齢別クラスは18歳の高校生は一つ上の M20E クラスに出場でき、そこで大学生と競い合うことができる貴重な機会だったという意義がある。この意義はいまどうなっているかわからないため、全日本大会の価値が変わればそれに追従すると思う。全日本大会の開催時期もその頃とは変わっている。
木村	全日本大会の20E クラスは、無理に大人と同じ舞台で戦わせて成長途上の体を壊してはいけない、ジュニアは守らなければいけないというコンセプト、これは世界スポーツの風潮である。オリエンテーリングにもまずこの理念がある。そのための20E であると思っ欲しい。この意義により18E クラスを作っても、基準を18歳以下として、18歳以下は18E クラスより上位のクラスには出られないことにしなければならない。参考までに、昔は最上位クラスとして ME しかなかったのが高校生だった私も参加していた。
田中	18E を作ると高校生向けクラスになる。インターハイがすでにあり、どのような価値になると考えられるか。
坂野	JOA の後ろ盾のある公認大会や全日本大会は学校からの注目や支援があった。しかし毎年同じ時期に開催され、高校生向けのコースコントロールがなされているインターハイには JOA の後援等はなく、両方にそれぞれの価値があった。その価値は今後変わっていく可能性がある。
木村	全日本大会としては20E クラスがあっても良いと考えている。セレクションを全日本大会に共催しない地区学連から全日本大会へ来た大学生選手が20E クラスに出場することは可能である。M21E は世界基準なので変わることは難しいと思う。日本の学期制と世界のそれは異なっているため、クラス分けも異なる。18E を作るとなると19歳20歳はどうなるのか。
坂野	18E,21E,18A,20A,21A というクラス分けにすると、20A は E に出ない19~20歳クラスとも言える。19~20歳で21E 権を許可しなければならなくなる。
小泉	インターハイとクラス分けが同じになるが、それらの価値については高校生に聞き、任せるしかないだろうか。
坂野	今年のインターハイでは個人戦高校生上位者に全日本大会 M20E 権が特例で付与された。これはどのような意図だったかお聞きしたい。
木村	私は担当していないので想像になってしまう。大学生は学連とつながりがあるため支援しているが高校生を支援する繋がりが無い。高校生とも関わって、全日本

	大会への出場権提供という形で協力したいと考えている。
木村	インターハイは JOA の関与しない草の根大会の一つであり、JOA として関与しすぎることはできない。それでもバックアップできることはしていきたい。
坂野	インターハイと全日本大会はこれまでも共存してきたから、全日本大会の形が変わってもただちにどうなるというわけではないと思う。
小泉	クラス分けについてまとめると、20E を廃止しジュニアクラスとしての 18E 作成、20A などそのまま。これが学連から JOA への提案でどうだろうか。
木村	20E 改革は全体の改革に比べれば小さい問題である。20E がそのまま残れば高校生とセレクションに関与しない大学生、またはその年令に相当する一般参加者が出場するという形式でも問題はないように考えられる。
小泉	全日本大会 M20E クラスはセレクションを兼ねることが決定したので大学生とは結局のところ競えない。実質的に 18E という形にならないかと考えてきたがその影響が私たちにはわかりにくい。
瀬川	例えば山岸夏希が高校生の頃は同年代にライバルがあまり居なかったため 20E クラスに出て大学生と競うことで得られたものはあったのではないだろうか。できることなら現行のままでもいいのではないだろうか。
田中	しかしセレクションの扱いを 20E クラスとしてしまったので齟齬が生じている。
木村	結局それは無理があつて、セレクションクラスは複数に分割せざるを得ない。3 コース以上になるのではないか。それを比較すること、さらには高校生を混ぜるのは運営負担やエリートクラス設立の意義からして現実的でない。結局セレクションと関係のない 20E クラスは別物になる。学連として大学生として、20E クラスがそのまま存在することは影響ないのではないか。
小泉	木村さんの意見を踏まえて、高校生以下の選抜クラスを 18E としたいという案を検討してきたが、結論は控えたい。セレクションは 20E として扱うかどうかにかかわらず専用クラスとなることに異論はないか。
坂野	女子高校生の W20E クラスが閑散となりそう。男子クラス M20E にも出場は可能になると思うが W20E クラスの価値低下は避けられない。そもそもインターハイ女子出場者は今年いなかった。
木村	W20E クラス出場者は 1000 人に 1 人いるかいないか程度のものすごく少ない選手の話であり、この改革を行うには避けられない。20 歳以下の選手クラスの価値については JWOC 選考が関わってくるかも知れないが、それはこれまでも別で選考会を行っている。
小泉	加盟校というよりは、高校生の意見も集めたい。
坂野	インターハイの関係者の連絡メーリングリストが存在する。そこでメールを流すことは可能。

小泉	セレクションクラスの20Eとの統合はせず、専用クラス作成で共催という形式をとっていただく。幹事会では20Eを廃止して18Eの新設を検討しているが中高生の意見を集めつつ次回の議論をしたい。
小泉	セレ免除に納得できる公認大会のあり方を考えたい。1日に2回ある公認大会や、回数の少ない年度、運営者が大学生の場合の公認大会開催メリットが下がってしまうなどの意見について考えたい。
田中	そもそも公認大会の開催数を増やす方針があり、全日本大会参加者を増やすという目的がJOAにはあるはずだ。
木村	そもそも公認大会とは、品質が維持された大会で、規則に則った公正な結果や競技の保証。その経費のために課金システムである。品質が高い大会はどんどん増やすべきであり、JOAとしても正しいオリエンテーリングを示すために公認大会を増やしたい。それを前提にして欲しい。いまは以前ほどオリエンテーリング競技者が多くないこともあり、大会の品質は保証しなくても判断できるか、品質自体が上がっている。そのためJOAによる保証の意義が薄れている。
小泉	公認大会はコストが上がる割に失敗したときに参加者の不満が募るリスクが高い。主催者として公認大会をなぜ開くか、なぜ開かないか、について理由はあるか。
中村	京大大会が公認大会を開催する理由はこれまでの継続が大きい。地方なので参加者を集める目的である。
瀬川	東大大会が公認大会を開催しないのはJOAに払うお金、満たさなければいけない基準が高く、公認大会としなくても人が来るようなセルフブランディングに成功している。とにかく公認大会にするメリットが薄い。
木村	まさにそのとおりでと思う。セルフブランディングに成功していて、それは素晴らしいことだと思う。公認大会にすると参加者の期待値が高まり、失敗したときのリスクが高い。
田中	筑波大大会で開催した際もコントローラ見つからない、ノウハウがない、リスクが大きいなどの障害があった。コントローラ資格取得の促進を行って欲しい。JOAがそういったことすべきでは。
木村	そのとおりで、コントローラは壁が高い。なかなかない。
小泉	公認Bの区分を学生大会で活用できないだろうか。
田中	公認A基準を満たす大会の開催は学生には相当難しいと思う。
木村	これらは学連の意見としてJOAで考えたい。
小泉	公認大会が増えることはオリエンテーリング界全体にとって良いことだと思うので、この普及は学連としてではなくJOAにやってもらいたい。
瀬川	公認大会の開催時期や地域の調整はできないか。現状では遠征の計画やタイミングから参加しづらいものもある。全日本大会との関係上、公認大会の開催時期や

	開催場所の安定を行って欲しい。
田中	例えば中日東海大会は、時期が予想できるくらいには毎年安定して開催されていて、県協会ごとの持ち回りとなっているなど、安定感がある。
木村	その意見とは JOA は目指しているところが異なる。公認大会はどれだけ数が多くあってもいいし時期もいつでも良い。日程の重複も問題ないと考えている。公認することで品質保証をするという目的のため、申し出てきた大会を断ることはない。たとえば陸連の公認制度によるマラソン大会はかなりの数が開催されていて、公式の記録や、非公認大会と比較して厳密な測定が行われている。そのように JOA は公認大会を増やし品質保証をしたい。
小泉	もし実際にそのように多くの公認大会が開催された場合にはそれに合ったセレクション方法を検討したい。
木村	公認大会の意義とセレクションの目的が異なっているため、それを統合していくことは JOA として難しいとは伝えたい。
小泉	JOA に対して新しい全日本大会を提言していきたい。E 権の取りやすさ、クラス分け、参加者増加のための案など新しい提案はないか。インカレ上位者に E 権を付与することはできないだろうか。
田中	公認大会併設する場合にはインカレ上位者に E 権が付与されるが、併設大会の関係なく付与することはできないだろうか。もともとはインカレ参加者が公認大会に出場できなくなるために設けた特例だと思いが適用範囲を拡大できないだろうか。
木村	適用範囲の拡大という意味でなく、日本を代表している学生組織が JOA 会員になった今では、それは JOA 総会において提案すれば制度化可能なはずである。
小泉	現行の規約では、「インカレに公認大会が併設される場合にはインカレ上位 6 名が M 全日本大会 21E 権、地区セレクション上位 2 名が公認大会 21E 権」を取得できるとある。ロングやミドルの区別も必要になると思うし、人数に関しても異論はあると思う。順位と種目に関して意見を集めて、日本学連関連大会から全日本大会出場権を得られるようにしたい。総会でヒアリングしたい。
小泉	クラス分けについて、数十年前に定められた年齢わけを見直したいという意見については、今の時代に合わせて変更すべきか引き続き検討したい。また、全日本大会参加者数増加のために演出を教科することはできないか。海外の大会では選手のリアルタイム GPS トラッキング、ドローンからの空撮、会場での大型スクリーンでの速報などできないか。JOA に提案しこちらでも検討していきたい。
田中	会場フィニッシュとするなどコースレイアウトでの演出はできるのではないか。
小泉	公認大会基準の緩和やコントローラ資格取得の促進できないか、JOA に対して提言していただきたい。以上 E 権の取りやすさ、全日本大会のクラス分け、参加者増加のための案、公認大会開催基準の見直し、の 4 件を JOA に対して提案

	する。今後も全日本大会への提案を考えていきたい。
田中	この提案について学生から意見を集めるのは学連を通すのか。
小泉	学連は仲介しているだけの形だが、できるだけ意見を集めていきたい。
小泉	全日本大会開催によって影響する学連の規約について考えたい。これは日本学連規約ではなく地区学連セレクション規約の改正となる。各学連セレクション規約を調べたところ存在しない学連があるようだ。関東・関西はあるようだが
横田	東海インカレ規約が存在するがセレクション規約は無い。東海インカレがセレクションになっているのでセレクション規約作成の必要がないと考えている。
高田	北信越学連には存在しない。
渥美	北東学連には現在はない。ロング規約がもうすぐ作成されることになっている。
小泉	となると全日本大会をセレクションとするに当たって地区学連のセレクション規約を変更する必要はないのだろうか。
田中	現在まだ変わっていく可能性があり、未確定事項の多い全日本大会をセレクションに採用するという規約をいま固めてしまうと今後の変化に対して規約の柔軟性がなくなることが考えられる。
小泉	規約については今後も整合性を調査していくが、急いで改正する必要はないと判断する。
小泉	<ul style="list-style-type: none"> <li>・セレクションが複数行われて価値がなくなる</li> <li>→これまでもいくつかの地区では複数行われてきている。問題ない。</li> <li>・全日本大会の価値が下がるのではないか</li> <li>→そもそも延命措置としての改革であるから、価値はこれから作っていくもの。</li> <li>・地区学連へのセレクション採用の強制はあるのか</li> <li>→各地区学連の判断に任せ強制はしない。セレクション 2 本制規約作成を推奨したい。</li> <li>・セレクション免除の適用は行うのか</li> <li>2018 年大会から行うため、2017 年全日本大会が初の適用可能性のある大会となる。</li> <li>・開催判断の時期や運営者募集について</li> <li>基本的には当日手伝いを募集するのみで、1 年前には告知する</li> <li>・20E とセレクションの関係</li> <li>セレクションは専用クラスを作成し、20E は現状維持する。</li> <li>・セレクション免除となる公認大会の価値を考える</li> <li>公認大会の開催を促進していく方針で、JOA にて協議してもらおう</li> <li>・JOA に対する提言</li> <li>インカレ上位者の M21E 権付与を検討する。それ以外にも魅力的な全日本大会制度のために日本学連は引き続き提案や意見募集から行う。</li> </ul>

東海	全日本 21E 権によりセレクション免除となったひとが全日本大会に出場しないことは認めるのか。
小泉	この制度は全日本 21E に出場してほしいからセレクションを免除しているのであって、本来の意図に反しているがそれを咎めることはできないと思う。
木村	個人の都合を挙げるときりがないので認めざるをえない。その人の実力を保証する大会がセレクションではなく公認大会であった、と考えることはできないだろうか。
小泉	強制できることではないからセレクション免除者には全日本大会 21E クラスに出場を推奨するにとどめて、規約化等は避けたい。

## 6. インカレリレー特例措置について

### 要旨

例年インカレリレーでは少人数大学による混成チームの出場が特例措置として認められてきた。これを制度化できないか検討したが、あくまで特例であり、インカレの規約や趣旨からしてありえないチームであり、規約にはできないとした。

小泉	インカレリレーに 2 人以下の加盟員の大学は他大学と連合して 3 人の 1 チームを作り、リレー特例措置として毎年認められて出場可能だった。昨年の大会では 3 人以上の加盟員がいる大学が同様に連合チームを作り出場したいとの相談がありこれを認めた。この特例措置を制度化できないかの議論を行いたい。 平成 14 年度に男子 4 人リレーから 3 人となった際にこの特例措置ができた。21 年以降で適用されていた。この特例措置を今年も行うことについて意見を集めたい。
田中	本来は 3 人以上いるのなら大学でチームを組むべきだと周知した上で連合チームを作成してもらう分には構わないと思う。
細	反対で、記念参加は避けて欲しい。学生 1 位を決める場に連合チームがオープンとして出るべきではない。
小泉	今年も適用するのか、渉外からアンケートを募って判断したい。
小泉	特例を制度化する件について異論はないか。特に女子は単一大学で 3 人チームを作れない。KOLC 内でも特例措置が今年もあるものと想定して、すでに他大学と協力してチームが組めるよう相談もしている。
木村	正規チームとして出場ができないならば、それはインカレの制度にはないチームであり、規約にはできない。

小泉	木村さんの意見はもっともだと思う。このリレーチームが出場できるのはあくまで特例であり、少人数の大学が正規チームで出場するには加盟員を増やすよう頑張ってもらいたい。
----	---

## 7.新規栃木県内地図作成

テレインの経年変化と渉外状況の把握のため、栃木県内での新規地図作成規定を栃木県協会が作成したことについての報告がされた。

堀江	新規地図作成の際には協会に作成範囲と作成理由を申請すること。 完成後に提出すること。修正時にも同様の申請を行うこと。 登録料を1テレイン1000円徴収する。 という制度を来年度から施行したい。日本学連として栃木県内の地図著作権を多く所有するが、何か意見はないか。なければその旨を栃木県協会に返信する。 また、栃木県内の渉外について確認したい。日本学連への書面と栃木県への書面があったが、今年度より学生は日学だけに送り、日学から栃木県協会へ書面を送るように制度を変更した。周知をお願いしたい。
坂野	もしHPに申請方法の修正があれば指示をいただきたいです。
小泉	制度の周知に時間がかかっているように感じるため地区学連からも連絡して欲しい。

## 8.インカレスプリント会計

### 要旨

インカレスプリントでは費用がかさみ発生した赤字を日本学連に補填してほしいとの要望が実行委員会からあったため20万円の補填を承認した。今後もロングとスプリントを同時開催すると、場所の制約によって費用が高くなるため、開催方法やコンセプトについて議論した。

小泉	今年度のインカレスプリントでは渉外等に費用がかさみ、日本学連に赤字を補填して欲しいとインカレ実行委員会より連絡があった。また、これまでのようにインカレロングとスプリントを一緒の地域で開催すると場所の制約によって高くつく場合がある。赤字負担をする制度や補助金の予算を決めたい。
木村	参加費を値上げすることはできないのか。担当理事に連絡はあったのか。

小泉	それはしないことにしたらしい。理由は一般クラス出走者が少なく、採算をとるには選手権クラス参加費が高額になってしまうため。担当者の齋藤理事は把握しているはず。
木村	要求事項は何か。
小泉	今年の赤字 20 万円の補填と、今後の会計について対策を立てて欲しい。
木村	今後の会計は今後に行実行委員会との相談になる。理事も交えて決めなければならない。
小泉	今年の赤字補填はもう開催直前なので必要になる。会計運用細則 11 条 2 項、予算申請していないものの支出で 5 万円以上 20 万未満は幹事会承認が必要となっている。
	全会一致で 20 万円の支出を認める。
小泉	今年度のインカレ実行委員会へ申請額 20 万円の支出を認める。来年度意見は今回の実行委員会から詳細な提案をいただき、確認を行ってから検討したい。

## 9.次回幹事会について

	筑波大学大会（木葉下）にあわせて 1 月 28 日(土曜日)水戸周辺を予定
--	---------------------------------------